

令和5年度の教育活動等に対する学校評価書

1. 教育目標 自立性のある子供 元気にあそべる子
2. 本年度の重点目標 (学校評価の具体的な目標や計画)
0歳児から未就園児までの子育て支援を積極的に取り組んでいきたい。
3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

<※評価点はA(十分に成果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった)>

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善点	評価点	意見
I 保育の計画性	A	毎日の保育を振り返りながら保育を実践してきたが、今後も見通しを持って計画し、目の前の子供達に合った保育ができるよう計画していく。	A	ベテランの先生ほど幼稚園教育要領を読み直し、より理解を深めたいという意見が多い。
II 保育の在り方・幼児への対応	A	子供ひとりひとりに寄り添う事や、その子に必要な援助を心掛けている。引き続き、怪我や事故の情報共有をしっかりとって怪我や事故を未然に防いでいく。	A	怪我や事故についてしっかり情報共有できている。引き続き実施し、子供の姿の共通理解については更に話し合ってもらいたい。
III 保育者としての能力や良識・適正	A	各自保育のスキルを上げる研修を受講したり、他の先生の保育を観る機会を増やしたい。	A	自ら進んで学ぼうという意識を持った先生が多い。実際に自主的に研修を受けたり、他の先生の保育を見て学ぶ機会が増えるといいと思う。
IV 保護者への対応	A	適切な保護者対応を心掛けているが、対応が難しいと感じることが多かった。信頼関係を築けるよう保護者の事もしっかり見て、丁寧な保護者対応をしていく。	A	丁寧な保護者対応を心掛けているが、保護者対応の難しさを感じた先生もいるので、保護者の事も子供達と同様に对应して欲しい。
V 地域の自然や社会との関わり	B	登降園時の挨拶や中学生、高校生の職業体験の受入れをして地域と関わりがもてた。小学校について勉強不足な点があるので、情報収集して理解を深めたい。	B	未就園児の参加できる子育て支援事業を増やしたことで、地域との関わりが深まった。小学校についても関心を持って自ら情報収集して欲しい。
VI 研修と研究	A	発達医療センターの先生と一緒に園内で行っている療育支援が、非常に勉強になっている。	A	園内で行っている療育支援が子供や保護者の支援だけに留まらず、先生たちの研修の場としても大変いいと思う。

4. 本年度の重点目標の総合的な評価結果

今までも開催していたベビーマッサージや子育て支援の講演会に加えて、0歳児から未就園児までの子育て支援が新たに実施され、保護者にとって良い情報交換の場となり、子供にとっては同年齢の子と触れ合ういい機会になっている。

5. 今後取り組むべき課題

地域との関わりが少ないという課題があるので、年間を通して未就園児の親子教室の回数を増やし、更に保護者と子供が来園する機会を多く持てるようにしていく。「こども誰でも通園制度」も施行開始予定。